

〔田氏家集〕中元慶五年冬、大相國以拙詩草五百餘篇始屏風十帖、仍題長句謹以謝上、

常嗟雅頌聖時空、收拾博偏報國功、雖識骨輕無足買、恐拋石質有堪攻、蓬蒿獻草任垂白、行年五十餘、垂白可知、

菅蒯開花欲奪紅、曾在昌齡成帝號、玄宗立王昌齡爲詩帝、不言詩上玉屏風、

〔本朝無題詩〕二屏風附畫障、見屏風春所獨吟、

法性寺入道殿下藤原忠通

晚夏自元感正頻、屏風獨見會文賓、庭叢雨打添繁茂、門柳煙翻帶麴塵、嵐渡嶺櫻口、口白雪遷溪木惜、餘勻園中成望往、來客林下易留羈、旅人遊子塞垣調、笛曉漁翁河海艤、舟辰松杉綠老枝、經歲桃李紅深、花染春句、曲山前霞色聳、雲和樓上月光新、一吟一詠數盃酒、驚眠破夢不才身、

〔枕草子〕六正月に寺にこもりたるは略○中 小法師ばらのもたぐべくもあらぬ屏風などのたかき、いとよくまんだいし、

〔野守鏡〕上一心をすなほにして、心をすなほにせざる事、それ歌の心は、屏風をたつるに同じ、みなひきはへて一おりする所なければ、たつ事をえざるごとく、たすなほなる計にて、ひとおりの節なきは、彼大す、き、其難をまねき侍るにや、